

2004年度認定審査サマリーレポート

2004年度の審査の結果、新規に申請された中から84プログラムが認定されました。申請の特徴は、16分野全てから申請が出揃ったことです。本年度新たに審査に加わったのは、森林および森林関連分野、物理・応用物理学関連分野、生物工学および生物工学関連分野の3分野でした。

プログラムが基準をほぼ満たしているものの改善を必要とする場合には、2年後に改善結果を確かめる中間審査を実施することになっています。2004年度に新規に認定された84プログラムの内、中間審査が必要と判断されたものは66プログラムでした。また、新規申請プログラムに加え、23プログラムの中間審査を実施しましたが、書類審査または訪問審査の結果、いずれもその改善が認められて残り期間の認定が認められました。

以上の認定により、2001年度に認定を開始してからの認定プログラムの総数は、97教育機関で186プログラムになりました。認定プログラムからの修了生の累計は約18,000人に達しています。

審査員の養成は、新人審査員導入研修会を例年の通り開催し199名の参加を得ました。その他に審査学協会主催の研修会が10回開催され735名が参加しています。研修された方から実地審査のオブザーバーを経験した上で審査員になっていただいています。2004年度の審査員は349名、オブザーバーが247名で、合計596名の方が実地審査にでかけました。そのうち産業界の経験者は約160名でした。実地審査の前に、共通化をはかるため一泊二日の審査前研修会を二度に分けて実施し、各審査チームから214名が参加し意見交換を行いました。

審査チームの審査報告は各分野の分野別審査委員会で審査され「分野別審査報告書」としてJABEEの認定・審査調整委員会に提出されました。認定・審査調整委員会は、分野間の調整を実施し、「最終審査報告書」として認定委員会に提出しました。認定委員会は、認定可否を採決により決定しました。2日間に及ぶ検討会が、認定・審査調整委員会で2回、認定委員会で1回、合計3回行われました。この間の審議は守秘義務と倫理規定を遵守して行われました。

2003年度のワシントンアコードによる審査で、エンジニアリング・デザインに関する教育、評価に懸念が示され、JABEEでは昨年12月に国際シンポジウムを開催し、「エンジニアリング・デザインの共通認識」を作成しました。2004年度は共通認識を受けた最初の認定審査でしたが、共通認識の波及を確認するにとどめ判定は次年度以降に行います。

高等教育がJABEEの認定制度に適合していく過渡期の現象と思われる例がいくつかありました。JABEEは、社会の要求を考慮した学習・教育目標を設定し、その目標を修了生全員が社会の要請する水準以上で達成していることを求めています。学科を二つにコース分けして、一方のコースにだけJABEE認定を申請するという方式をとっている例の中には、申請コースの履修登録者の大多数が修了に至らずに途中で他方のコースに転出してしまっているものがありました。JABEEとしては、修了生全員が目標を達成していれば認定していますが、このように多くの学生が転出してしまふ状況は教育プログラムとして好ましくなく、改善を強く求めています。一方で、学科そのものを一つのプログラムとして目標設定を行った例の中には、修了生全員がその分野で期待されている水準に達していることが保証されていないとして認定されなかったものがありました。

教員資格が問題になり、「教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者として人事が行われていない者が単独で担当している科目があり、改善が必要である。」との指摘が行われました。既に認定されているプログラムについても、同様の問題がある場合は、できるだけ速やかに改善していただき、次回審査で確認することになっています。

注：「プログラム」とは、学科、コース、専修等のカリキュラムだけではなく、プログラムの修了資格の評価・判定を含めた入学から卒業までのすべての教育プロセスと教育環境を含むものであり、学科やコースなどの総称です。